



上部消化管内視鏡検査の説明書

検査日は_____月_____日(____)

来院時間は9時30分頃です

【検査の目的】

上部消化管内視鏡検査は、食道、胃、十二指腸を観察し、病変を見つけ適切な治療方針を検討するために行います。

【方法】

入れ歯、指輪、時計などの金属類を外します。胃の中を見やすくするために消泡薬を服用し、内視鏡室へご案内します。のどをスプレーの麻酔薬で麻酔します。検査が楽に受けられる鎮静剤の注射は希望時または医師の指示にて行います。内視鏡を口から挿入し、食道、胃、十二指腸を観察します。必要とされる場合は、粘膜の一部を採取し(生検)、病理学的検査を行います。生検に痛みを伴うことはありません。止血術等の治療が必要と判断した場合は、治療も行います。

【検査前日及び当日の注意事項】

①検査前日は、夕食と常用している薬剤は午後9時までに済ませて下さい。検査が終わるまでは、絶食になります。水、お茶は飲んでも構いません。

②検査当日は血圧、喘息など、指示された薬はこの時に服用してください。ワーファリン、バファリン(アスピリン)といった、血液をサラサラにする薬(抗凝固剤など)を服用している方は、必ず申し出てください。現在服用中の薬剤情報提供書・おくすり手帳あるいは現物を持参してください。

③検査終了後、生検を行わなかった場合は1時間、行った場合は2時間、食べたり、飲んだり喫煙はしないで下さい。(飲食物が肺に誤って入ったり、生検部位からの出血の予防のためです)生検を行った場合は、最低2日間、アルコールや刺激の強い食品は摂取できません。

【偶発症(合併症)】

精密な検査ほど偶発症の頻度は増加します。前処置薬によるショック、呼吸抑制、心停止や検査時の咽頭部損傷、粘膜裂傷、出血、穿孔、検査後の胸やけ・下痢が報告されています。上部消化管内視鏡検査の偶発症頻度は0.012%、死亡率0.001%と報告されています。万一偶発症が発生した場合には、内視鏡的処置・開腹手術を含めた緊急処置を行い、最善を尽くします。

